



# 向上と進展



[発行所] 公益社団法人 日本学生陸上競技連合  
〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル2階  
TEL 03-5304-5542 FAX 03-5304-5569

## 平成26年度を迎えて

会長 保利 耕輔

日頃は、本連合の運営に並々ならぬご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年の9月には2020年の夏季オリンピックが東京で開催されることが決まり、6年後のオリンピックに向けて、本連合の役割も今まで以上に重要視される環境になってきております。

昨年度の競技会においては、7月にロシア・カザンにて行われました第27回ユニバーシアード競技大会で、32名の学生選手が出場し過去最多タイの13個のメダルを獲得、世界を相手に素晴らしい活躍をいたしました。

さらに、10月の実業団・学生対抗陸上競技大会では学生チームが24年ぶりに実業団チームに勝利し、学生の競技レベルの向上を改めて感じた大会となりました。

また、昨年度は全日本大学女子選抜駅伝競走が静岡県富士市、富士宮市で初めて開催されました。開催日時等まだまだ解決しなければならない課題がありますが、富士宮市、富士市の両市の協力を得ながら本大会をより良い大会にして行きたいと思っております。

さて、今年度は日本学生陸上競技対校選手権大会が埼玉県熊谷市で開催されます。熊谷市は三方を山に囲まれており、高温多湿の気候の中での競技会となります。選手の皆さんにはそんな環境に負けない熱い戦いを繰り広げてくれることを期待しております。

さて12月に予定しております指導者会議は今年が60回目の開催となります。この節目を迎えるにあたり「競技力向上に取り組む」という方針のもと本会議が学生陸上界のさらなる発展に寄与できることを願っております。

また、来年の夏季には韓国(光州)にて第28回ユニバーシアード競技大会が開催されます。本年はその試金石となる大切な年でもあります。一人でも多くの学生選手が世界のレベルを自身の肌で感じ、その経験を活かして2020年に控える東京オリンピックに向けてさらに精進してくれることを願っております。

最後になりますが、本年も関係者の皆様には、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、年度初めのご挨拶とさせていただきます。

# 公益社団法人 日本学生陸上競技連合 会報 第140号 (平成26年5月1日発行)

## 向上と進展

### 目次

2014年度を迎えて 会長 保利耕輔	1
会務報告 専務理事あいさつ	3
<b>[海外遠征報告]</b>	
2014世界大学クロスカントリー選手権大会	4
<b>[大会等報告]</b>	
第28回福岡国際クロスカントリー大会	10
第17回日本学生ハーフマラソン選手権大会	11
第8回日本学生20km競歩選手権大会	12
第17回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会	13
中四国学連合宿	13
<b>[会議等報告]</b>	
第9回理事会議事録	14
第4回社員総会議事録	21
競技委員会より	23
第39回学生幹部役員研修会	24
平成26年度会員数一覧	26
平成26年度賛助会員・編集後記	27

## 会務報告 (平成25年12月8日以降)

月	日	会務事項
12	9	第45回大学駅伝対校選手権小委員会 (名古屋朝日新聞社)
	14~15	第12回日本陸上競技学会 (日本大学文理学部)
	23	2013全日本大学女子選抜駅伝競走 (富士宮市・富士市)
1	21	第6回競技委員会 (学連事務所)
	24	2013全日本大学女子選抜駅伝競走第8回実行委員会 (静岡市)
2	4	日本陸連法制委員会
	9	第49回千葉国際クロカン (昭和の森) = 中止
	15~16	日本陸連競技運営責任者会議
	15	第17回日本学生ハーフマラソン選手権実行委員会 (松江市)
	22	第28回福岡国際クロカン (海の中道) ※世界学生クロカン選考会=千葉クロカン中止のため
	25	平成26.27年度役員候補選出会議 (衆議院第1議員会館303号室)
	26	委員長会議 (学連事務所)
	27	日本陸連栄章委員会
3	1	平成25年度栄章委員会 (東京ドームホテル)

## 2013年から今シーズンに向かって

専務理事 神尾 正俊

2013年はカザンでのユニバーシアード大会が開催され、その結果などから学生の競技力向上が認められたと判断できましたことは、指導者、学生競技者等の努力によるものであり、その活動に拍手をおくります。

トラックオフシーズンの道路競技に関しては、久しぶりに大学女子選抜駅伝が富士山女子駅伝として復活開催され、これも難コースを走破してくれたことと富士・富士宮両市民の温かな声援をいただき、無事終了できたことに感謝しております。また、その後に続く、クロカン、ハーフマラソン、20km競歩が開催されました。この中で千葉国際クロカンは前日からの降雪により中止になった大会もありました。

千葉クロカンは皆さんご存じの世界学生クロスカントリー大会の選手選考大会でした。それで急遽、福岡クロカンにおいて選考することになり、これも多方面の方々のご協力で2週間後、選考会を行うことができました。その選手団もウガンダ(エンテベ)

開催ということで予防接種(黄熱病、A型肝炎、腸チフス)をしたり、少々緊張した遠征になりましたが、男子団体3位、女子団体2位という成績で3月24日、無事に成田に帰国しました。

今、皆さんはトラックシーズンに向けてトレーニングに励み、記録会等で微調整をしながら、来るべき大きな目標に向かっておられることでしょう。それに加えて、2020年、東京オリンピックという大きく、そして気持ちを奮い立たせるに十分な好機が目の前にやってきました。

——話とはびますが、東京オリンピックの盛大な開催は十分期待できますが、開催後の施設使用までも考慮して貰いたいものです——

このように競技の結果の追求と同時に我々学生として人間形成をそれぞれの大学の部活動指導者において仲間と一緒に切磋琢磨し、向上・進展していくことを期待します。

# 【海外遠征報告】 2014世界大学クロスカントリー選手権

報告者 米田勝朗（名城大学）



前列左から飯野摩耶(東京農業大)、小澤夏美(白鷗大)、木村美有加(大東文化大)、上原明悠美(松山大)  
後列左から柿原聖哉(神奈川大)、浅岡満憲(東京農業大)、馬場翔大(駒澤大)、市田 宏(大東文化大)

## 1. 大会名

第19回世界大学クロスカントリー選手権大会

## 2. 大会期日

2014年3月22日(土)

## 3. 派遣期間

2014年3月19日(水)~24日(月) 5泊6日

## 4. 場所

ウガンダ共和国 エンテベ

## 5. 派遣種目

男子10.5km、女子6km

## 6. 派遣選手

(男子4名、女子4名)

男子：馬場翔大（駒澤大学）、柿原聖哉（神奈川大学）、市田 宏（大東文化大学）、浅岡満憲（東京農業大学）

女子：小澤夏美（白鷗大学）、上原明悠美（松山大学）、飯野摩耶（東京農業大学）、木村美有加（大東文化大学）

## 7. 派遣スタッフ

監督：山下 誠（玉川大学）

コーチ：米田勝朗（名城大学）、  
鯉川なつえ（順天堂大学）

ドクター：蒲原一之（日本学連）

トレーナー：阿部美由紀（日本陸連）



## 8. 大会の概要

### (1)参加国および競技方法

第19回目となる本大会は、ウガンダ共和国エンテベ市にて行われた。

日本チームの出場は、17回大会（カナダ・キングストン）、18回大会（ポーランド・ウッチ）に引き続き3大会連続3回目となった。参加者は、男子15ヶ国61名、女子15ヶ国42名であった。これまでの大会と同様に個人戦と団体戦が行われた。団体戦は順位ポイントの合計（男子上位4名、女子上位3名）で争われたが、対象国となったのは男子10ヶ国、女子9ヶ国であった。距離は男子10.5km、女子は6kmで行われた。

### (2)ロケーション

エンテベは、ウガンダ中南部の都市で、人口は63,000人ほどである。

ヴィクトリア湖の湖畔に位置し、首都カンパラより南西に35km離れている。1976年にエンテベ空港奇襲作戦の行われたエンテベ国際空港があり、ウガンダの玄関口となっている。

### (3)スケジュールおよび滞在先と食事

アフリカ大陸での国際大会は、今回のスタッフ、選手全員が初めての経験であり、さまざまな不安を抱えての遠征となった。また出発前には全員が、予防接種（A型肝炎、腸チフス、黄熱）を行っての出発となった。

選手団は19日夕刻に成田空港に集合し、21時20分発のエミレーツ航空にて、経由先のドバイに向かった。約11時間のフライトであったが、夜のフライトということもあり、機内ではしっかり睡眠をとることができた。ドバイ到着後は約4時間の乗継時間の後、エンテベへと向かった。約5時間のフライトであった。日本を出発してエンテベに到着するまで実に20時間ほどかかり、さすがに疲労を感じる移動であった。

エンテベ空港到着後はすぐに滞在先のホテルに向かった。空港からは15分ほどであった。すべての選手がこのホテルに滞在することになっており、各国選手団も続々と到着している様子であった。ホテルはエンテベでは最高級クラスであると思われた。部屋も広く、快適に過ごすことができた。ただ、一つだけ驚くべきことが初日の夜に起こった。部屋の電気をつけたまま夕食に行き、2時間ほどして部屋に

戻ったら、なんと部屋中が虫だらけとなっていた。部屋の天井に数えきれないほどの虫が張り付いており、今までに見たことのない、異様な光景であった。部屋の窓を開けていたわけでもないのに、どうやってこの虫たちは侵入したのだろうと驚くばかりであった。選手の中で窓を開けっ放しで夕食に行った部屋が1部屋あった。我々の部屋とは比べ物にならないくらい見るも無残な状況であった。考えてみれば、ここはヴィクトリア湖の湖畔。今年は虫が大量発生しているとのことであった。

食事に関しては、朝と昼はビュッフェ形式になっており、とても美味しく調理されていた。想像していたほど悪くはなく、ストレスを感じることなく食べることができた。ただ夕食に関しては、初日、二日目とも歓迎レセプションが屋外で行われた。両日とも民族舞踊などが披露され、食べ始めるまでかなり時間がかかったことと、虫の大群が光に集まってきた、ゆっくり食事をするという状況ではなかった。二日目については、そこで食べることを断念し、ホテルのレストランに移動した。しかし、ホテルのレストランも注文してから1時間ほど待たされ、散々な夕食となった。遠征期間が、短期間ということもあり、夕食の待ち時間を除けば、食べることには何の問題もなかったと思われる。レース当日の朝食は、ほとんどの選手が日本から持参したお米などを食べていた。

### (4)到着から試合までの調整について

今回の遠征は、現地に到着してから2日後には試合というかなり厳しい日程であった。到着した日の夕方に、ホテル周辺で各自ジョギングを行った。治安の悪さを心配したが、ホテル周辺を走ったり、歩いたりする限り、危険を感じるようなことはなかったと思われる。二日目は朝練習を行ったあと、午前中に大会会場に行き、コースでのjogと軽い刺激を各自入れていた。さすがに長旅の疲れと時差が関係し、選手の動きは多少重く感じた。午後は阿部トレーナーに、身体のチェックとケアを行ってもらった。

### (5)選手のコンディショニング

日本を出発する前に、蒲原ドクター、阿部トレーナーにコンディションチェックを行って頂き、選手たちの体調を把握した。若干故障ぎみの選手がいたが、レースに出場できない状況ではなかった。現地ではトレーナールームを設置し、蒲原ドクターが体

調のチェック、阿部トレーナーがケアを行った。蒲原ドクターが用意していた虫よけクリームが、効果を発揮し、虫などに刺された選手はほとんどいなかった。

## (6)大会のコース

今大会は、ゴルフ場内に1.5kmのコースを設定し行われた。ゴルフ場自体は日本ほど良くはないが、クロスカントリーコースとしては、これまでの大会と比較すると、とても良く作られていた。ゴルフ場の特性をうまく利用し、バンカーの中を走らせたり、急激な坂を走らせたりと、選手の力が試されるコース設定となっていた。

## 9. 大会結果

### 【男子10.5km】

氏名	所属	順位	記録
馬場 翔大	駒澤大学	6位	32分55秒88
柿原 聖哉	神奈川大学	12位	33分22秒03
浅岡 満憲	東京農業大学	13位	33分24秒53
市田 宏	大東文化大学	16位	33分47秒93

### 【女子6km】

氏名	所属	順位	記録
上原明悠美	松山大学	4位	21分16秒97
木村美有加	大東文化大学	5位	21分22秒31
小澤 夏美	白鷗大学	6位	21分30秒63
飯野 摩耶	東京農業大学	16位	22分16秒52

### 【団体】

順位	男子		女子	
	国名	ポイント	国名	ポイント
1	Kenya	14	Uganda	6
2	Uganda	29	Japan	15
3	Japan	47	Canada	38
4	South Africa	74	South Africa	48
5	Italy	90	Italy	51



団体戦は男子が3位、女子は準優勝

## 10. 大会の総括

大会当日は快晴で、気温も27～28℃はあったのではないかと思います。(気象状況の公式発表なし) クロスカントリーという競技の特性に加え、暑さとの戦いとなった。

レース前にアドバイスした内容としては、この暑

さの中で前半からハイペースでいくと後半に響くので、スタート直後の走りには十分注意するようということであった。個人の成績も大事であるが、男女団体のメダル獲得を最低目標としていたからである。私は過去2回の大会にもスタッフとして同行したが、今大会でのアフリカ勢（特にウガンダ、ケニア選手）の力はまったく違っていった。前半からハイペースで入り、中盤から後半にかけてもペースダウンすることなく、最後まで走り切った。開催国、もしくは開催国に近いということもあり、力のある選手を出してきたのだと思う。そのような中でも、日本選手は男女とも前半は冷静な走りをし、中盤から後半にかけても粘り強い走りができたと思う。特に男子は、前半の走りでは南アフリカに団体でも負けている状況であったが、後半の走りで盛り返し、見事銅メダルを獲得することができた。結果的にはアフリカ勢以外で、まともに走れたのは日本選手のみであった。

本大会の出場に関しては治安上の問題などから、派遣自体を見送るべきではないかと最後まで議論された。それに加え、選考大会として指定していた千葉国際クロカンが豪雪のため中止となり、今大会への選手派遣に限りなく赤信号がともった。しかし、学生陸上強化の観点から最後まで選手派遣をあきらめることなく、福岡クロカン主催団体等のご協力を頂いて選手団派遣へとつながった。私はスタッフとしてこれまで経験した国際大会に比べ、様々な危険リスクは高かったものの、日本学生陸上競技連合の英断により派遣された選手達は今後の競技にプラスとなる大きな経験ができたと確信しております。そしてそれが、日本学生陸上の競技力向上につながっていくことを心から願っております。

以下、選手達のコメントを紹介して本大会の報告と致します。

### 馬場 翔大 (駒澤大学)

高校生以来二度目の日本代表で、前回は遠征に比べて不安はなかった。標高も高校生の時に行ったアジアクロカンとあまり変わらなかったが、暑いのが苦手なので、そこだけが大きな不安要素だった。

世界大会自体は初めてだったけど、日本での大会と同じように、いつも通り緊張することなくリラックスして走ることができたし、今自分が出せる力は



馬場翔大(駒澤大)は32分55秒88で6位

出せたとする。ただ、自分自身、表彰台を目標にしていただけに、悔しいレースになった。

前半オーバーペースになることは覚悟していたが、その後の中盤疲れてしまって我慢することができなく、ラストの動きも悪くて、納得できる走りではできなかった。

走っていて日本チームの応援もすごく力になったけど、現地の日本人の方たちの応援はきつい時ものすごく力になった。三連覇をすることはできなかったが、最高の仲間と走ることができすごく嬉しく、この経験を今後のレースに活かせたらいいと思う。

### 柿原 聖哉 (神奈川大学)

今回、私は初の海外遠征を経験させてもらい、今後を見据えての大変良い経験をさせてもらいました。

あまりにも日本と環境が違いすぎて、かなり戸惑うことが多かったのですが、試合に向けて「走る」ということはしっかりと気持ちを落ち着かせていけたのでよかったです。

そしていざ試合に出てみると、実力の差を思い知らされて、世界で戦っていくためにはまだまだだということを感じました。

ここで感じたこと感じただけにするのではなく、



柿原聖哉(神奈川大)は33分22秒03で12位

自分の何が足りないのか、自分のどこがいけないのかをしっかりとフィードバックをし、今後につなげて行きたいと思っています。

まさか世界の舞台に立てるとは思ってもいませんでしたし、世界学生クロカン代表を決めたときは嬉しく思いました。

それを機に私は世界をかなり意識するようにもなりましたし、もっと戦いたい。と思いました。

そして是が非でも、東京五輪に出場し、世界と戦っていきたくて思っていますし、ここでの経験は私が成長していく中でのかなり大きな肥料になってくれたと思います。

目標達成という花が咲くように私自身、貪欲に物事を取り組んでいきます。

応援ありがとうございました、そしてこれからもよろしくお願いします。

### 市田 宏 (大東文化大学)

今回、ウガンダで行われた世界学生クロスカントリー大会に出場させていただきました。

結果、全体では16位の日本人4人中4番目の順位でした。そして団体では、ケニア、ウガンダに続く3位で銅メダルを獲得することが出来ました。

試合までの調整や生活のリズムもいつもと変わらない取り組みと気持ちでできましたが、レースでは同じ世界の学生の中も力は通用せず、力の差や精神的な面でも試合に対する気持ちが強く、勝負する気持ちや競技に対する姿勢は、一緒に食事などの交流の時間や練習前後の取り組み方にも目を向けて、英語の知識が少ない私でしたが、多くの選手と積極的にコミュニケーションをとることが出来ました。

レースは悔しい結果になってしまいましたが、今回ウガンダで多くの体験をした中で自分の英語力の



市田宏(大東文化大)は33分47秒93で16位



弱さも実感し、ウガンダで生活環境を通して人や物に対しての価値観、おもてなしの心があり自分が今の生活していること、そして競技ができていて、比べものにならないくらい自分の生活が恵まれていると感じました。

今回体験し感じたことは今までに感じたことのないことばかりでした。貴重な経験とこの悔しさと一緒にこれからに生かしていきたいです。ありがとうございました。

### 浅岡 満憲 (東京農業大学)

3月22日にウガンダのエンテベで世界学生クロスカントリー選手権大会が行われました。結果は個人13位、男子団体3位、女子団体2位でした。

個人としてあまり満足できる結果ではありませんでしたが、この大会に出場することで色々なことを学ぶことが出来ました。

まずアフリカ勢は圧倒的に強かったです。初めから突っ込んでそのまま落ちてこないというのは強さだと思います。しかし、日本人にも粘り強さがあると思います。この粘り強さを大切にしていきたいと思いました。

ラスト勝負で神奈川大学の柿原に負けたのは悔しいです。他にも強い選手はたくさんいますが、柿原には負けたくないと思えます。もちろん、駒澤の馬場、大東文化の市田も。とてもいいライバルが出来たと思えます。

初の海外遠征は短い期間ではありましたが、とても充実していました。今回の大会で学べたことを今後の競技人生に活かし繋げていきたいと思えます。沢山の応援、サポート本当にありがとうございました。

浅岡満憲(東京農業大)は33分24秒53で13位



小澤夏美(白鷗大)は21分30秒63で6位

### 小澤 夏美 (白鷗大学)

今大会が私にとって初めての世界大会となりました。そして初めての海外ということもあり、戸惑いや不安がありました。しかし、日本チームのみなさんやスタッフの方々のおかげで無事レースを終えることができました。外国の生活、おもてなしや食文化が新鮮で、大会の雰囲気なども楽しむことができました。

今回の大会で得たものは多く、レースを走りチームのみなさんと関わることで、視野が広がりました。私の持ち味は我慢して粘る走りですが、前半から積極的なレースをすることが課題の一つだと思います。今回の大会ではなかなかできない貴重な経験ができて、自分自身にとってとてもプラスになります。

これを無駄にすることなく、これからまた自分らしさを大切にしつつ新しいステップに進みたいと思えます。そして大学でこうして陸上ができているのも、多くの人の支えがあるからだと改めて感じました。感謝の気持ちを忘れず、走りて恩返しをしたいと思えます。

### 上原 明悠美 (松山大学)

今回、私は初めての海外遠征でした。アフリカということで不安も多くあり慣れない環境の中でしたが、ウガンダでの生活は全てのことが新鮮で学ぶことばかりでした。

初めて外国人と走るレースで自分がどれくらい勝負することができるのか予想がつかせませんでした。いつもと違う雰囲気の中楽しんで走ることができ、外国人選手にも物怖じせず立ち向かっていくことは今後につながると思えます。

しかし、個人4位、団体2位と、どちらもあと一歩という結果は悔しさが残りました。厳しい戦いに





上原明悠美(松山大)は21分16秒97で4位

なと思いますが、また国際大会に出場し戦いたいと強く思いました。

自分がこのレースを走るために多くの先生方や学連のサポート、JICAの方々への応援などたくさんの支えのおかげで安心して過ごせ、レースに集中することができました。

7名のメンバーにも恵まれ今後は高いレベルで切磋琢磨していきたいと思っています。本当にありがとうございました。

#### 飯野 摩耶 (東京農業大学)

この度は世界学生クロカンという貴重な経験をさせていただきありがとうございました。今回の遠征に対して、予防接種を含め多くの準備をしていただき感謝しております。

くせのある場所への遠征だったわけですが、想像していたよりは対応や環境が整っていた印象が強かったです。ホテルの部屋はエアコン完備、お湯も出る状態でした。競技場所であるゴルフ場も分かりやすいようコースも設置され、綺麗なコースでした。私自身は調整準備不足であったものの、現状把握には十分な経験でした。

レース外で気になった点をいくつかあげますと、

飯野摩耶(東京農業大)は22分16秒52で16位



木村美有加(大東文化大)は21分22秒31で5位

一つ目は今回の遠征に関して最少日数の滞在でありましたが、実際同じ日に現地入りした国は数多くあり、それが妥当だったのではないかと思います。二つ目は前夜祭を含めて、「どこまで「郷に入れば郷に従え」ということわざの範囲であるかと思いました。長くなりましたが貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

#### 木村 美有加 (大東文化大学)

今回、ウガンダ共和国エンテベにて開催された世界大学クロスカントリーに出場させていただきました。初めての国際大会、日本とは全く異なる環境でのレースに不安だらけでしたが、スタッフの方々のサポートやご配慮のおかげで安心して試合に集中することができました。

標高1200m弱の高地、気温28度という暑さの中でのレースは徐々に体力を奪われ、先頭を走るウガンダ勢には全く太刀打ちできませんでした。スタートしてスローペースだったこともあり、落ち着いて先頭集団についていくことができたのですが、3周目でペースアップしたときに離れてしまいました。

国際大会ならではのペース変化に対応することができず、ラストも切り換えられなかったというのが今後の課題です。初の国際大会での5位入賞は嬉しかったですが、レース内容と団体での連覇を逃したことが非常に悔しいです。

今大会で日本代表の責任、喜びを味わうことができました。2年後のイタリアでは個人として団体としてリベンジできるよう、日々精進していきたいと思っています。

# 【大会報告】 第28回福岡国際クロスカントリー大会

公益社団法人日本学生陸上競技連合 副幹事長 山之口 航

第28回福岡国際クロスカントリー大会は、2014年2月22日(土)、福岡県の国営海の中道海浜公園クロスカントリーコースを舞台に行われた。朝方から日が差し、多くの観客が詰めかけた。

本大会は、海の中道市民クロカンと併催の大会であり、1000人を超える市民ランナーが見守る中、12時50分、シニア女子6kmの部62名が一斉にスタートした。前大会2位であった萩原歩美(ユニクロ)が序盤から積極的なレースを進め、先頭集団を引っ張った。学生陣では、日本代表に選出された前田彩里(佛教大)が好位置でレースを進めた。前田はそのまま日本人トップでフィニッシュ。調子の良さを見せつけた。日本学生陸上競技連合杯を獲得したのは学生2位の大森菜月(立命館大)。学生3位には園田聖子(立命館大)が入った。上位3名の合計順位で争われる学生団体の部では、立命館大学が1位を獲得、2位に大東文化大学、3位に松山大学が入った。



日本代表として出場した前田彩里(佛教大)は日本人トップでゴール

13時30分からは、シニア男子10kmの部が、91名の参加で行われた。外国人勢が上位でフィ



連合杯を獲得したのは、学生2位の大森菜月(立命館大)



## 10 福岡クロカン



総合で日本人2位の一色恭志(青山学院大)が連合杯獲得



学生2位も青山学院大の神野大地



学生3位は中谷圭佑(駒澤大)

ニッシュ中、日本人トップの6位で松岡佑起(大塚製薬)がフィニッシュした。日本学生陸上競技連合杯を獲得したのは一色恭志(青山学院大)。日本人2位と大健闘した。学生2位には同じく青山学院大学の神野大地。3位には中谷圭佑(駒澤大)が入った。学生団体の部では、学生1位2位を独占した青山学院大学が1位を獲得し、2位には大東文化大学、3位には東京農業大学が入った。

本大会は3月にウガンダで行われる第19回世界学生クロスカントリー選手権大会の日本学生代表選手選考会も兼ねており、男子では馬場翔大(駒澤大)、柿原聖哉(神奈川大)、市田宏(大東文化大)、浅岡満憲(東京農業大)、女子では小澤夏美(白鷗大)、上原明悠美(松山大)、飯野摩耶(東京農業大)、木村英有加(大東文化大)が代表に選出された。

# 【大会報告】

# 第17回日本学生ハーフマラソン選手権大会

公益社団法人日本学生陸上競技連合 副幹事長 山之口 航

陸上自衛隊立川駐屯地から900人が一斉スタート



第17回日本学生ハーフマラソン選手権大会は3月2日、立川シティハーフマラソン2014と併催という形で、東京・立川市の陸上自衛隊立川駐屯地～国営昭和記念公園コースで行われた。天気はあいにくの雨で気温が低く、好記録の狙えるコンディションの中、9時30分にハーフマラソンがスタートした。中盤まで約20人が先頭集団を形成するが、日本体育大学2年の山中秀仁が徐々に差を広げ、ラスト5kmでは独走になり、そのままフィニッシュテープを切った。記録は大会新記録の1時間2分09秒。2012年に蛭名聡勝（帝京大）が作った記録を14秒上回った。2位には田口大貴（早稲田大）、3位には1年生の井戸浩貴（早稲田大）が入った。今年は1時間03分台以下で44人がフィニッシュするハイレベルなレースとなった。また、完走者も932名と過去最高を数え、学生長距離界のますますのレベルアップを感じさせる結果となった。



田口大貴（早稲田大）が2位



1時間2分09秒の大会新で山中秀仁（日本体育大）が優勝

## 第17回日本学生ハーフマラソン 選手権大会入賞者

（平成26年3月2日 東京・立川）

### ●男子ハーフマラソン

①山中 秀仁（日本体育大）	1:02:09
②田口 大貴（早稲田大）	1:02:30
③井戸 浩貴（早稲田大）	1:02:33
④西澤 佳洋（駒澤大）	1:02:33
⑤馬場 翔大（駒澤大）	1:02:37
⑥松村 優樹（順天堂大）	1:02:46
⑦白吉 凌（東海大）	1:02:49
⑧柳原 貴大（帝京大）	1:02:49



早稲田大1年の井戸浩貴（左）が西澤佳洋（駒沢大、右）に同タイムで競り勝ち3位



# 【大会報告】 第8回日本学生20km競歩選手権大会

公益社団法人日本学生陸上競技連合 幹事長 板東 孝訓

少しずつ春の足音の聞こえてきた3月16日(日)、石川県能美市の能美市営20kmコース(2.0km周回)にて、第8回を迎えた日本学生20km競歩選手権大会が行われた。今回も、日本陸連他主催の全日本競歩能美大会と併催という形で開催させていただき、学生選手権には男子82名・女子22名の選手のエントリーを受けてレース当日を迎えた。

レース当日の朝は、やや曇っていたものの、風雨で大荒れだった前回大会とは比べ物にならないほどの穏やかな天気であり、9時45分からのレースに向けて選手たちが気持ちを高めていた。

朝一番の中学生3kmレースを終え、いよいよ9時45分、男子20km競歩がスタートした。今大会の男子は、モスクワ世界選手権20km競歩6位の西塔拓己(東洋大)・2月に日本学生記録を大きく更新した高橋英輝(岩手大)という、昨年度競歩界に新風を吹き込んだ2名こそ、海外遠征の関係でエントリーしなかったものの、日本インカレ入賞者である木村洋介(順天堂大)や小林快(早稲田大)など実力者がそろっていた。レースは、その木村・小林の争いとなった。4周目あたりから2人で抜け出すと、10kmではす

左から優勝・岡田久美子(立教大)、2位・岡部文子(埼玉医科大)、3位・渡邊志穂(東京学芸大)



に後続に約1分の差をつけた。15km手前からは小林がやや木村を引き離し始め、最終的には2位に16秒の差をつけた小林が、昨年優勝した高橋のタイムを上回る1時間22分25秒で優勝し、早稲田大学の選手としては初めて本大会を制した。2位には木村、3位には管野智文(東洋大)が入った。

続いて、10時55分には、女子のレースがスタートした。このころからやや雲行きが怪しくなり始め、女子のレース中には、一時猛烈な雨が降る時間帯もあった。本大会2連覇中の前田浩唯(立命館大)がエントリーのみで出場はしなかったのは残念だったが、日本インカレ10000m競歩4連覇の偉業を成し遂げた岡田久美子(立教大)が出場し、1年生の時以来の本大会優勝を狙った。さらに、昨年2位の岡部文子(埼玉医科大)、近年競歩王国として力を伸ばしている東京学芸大学の渡邊志穂と八木望など、女子も実力者ぞろいで、楽しみな勝負が期待された。レースは、5kmを過ぎてから岡田が後続を引き離し始め、最終的には2位に4分以上の差をつける1時間33分25秒の圧勝劇を演じた。岡田は、3年ぶり2度目の優勝で、学生生活の有終の美を飾ることとなった。2位には昨年同様岡部、3位には渡邊が入った。



1時間22分25秒で優勝した小林快(早稲田大)



## 【大会報告】

# 第17回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会

公益社団法人日本学生陸上競技連合 常任幹事 小林 亨輔

第17回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会は3月16日、第35回まつえレディースハーフマラソンと併催というかたちで、松江城大手門前発着のコースで行われた。

当日は朝から風が強く、スタート直前の10時00分には風速11.7m/sを記録、大会本部のテントも何度か飛ばされそうになった。

レースの前半は日立製作所のオバレ・ドリカが先頭集団を先導し、その後ろにユニクロの萩原歩美が続いた。15km手前で萩原はドリカをかわし、そのままトップでゴールした。

学生は90名がエントリーし61名が出走した。レース中は終始強風が吹き荒れており、学生のトップは10名前後の集団を形成し先頭を引っ張る選手を交代しながらペースを保っていた。その集団のなかでも、昨年のユニバーシアードに出場し

世界の舞台を経験した京都産業大学の奥野有紀子が、常に集団の前方の位置取り優位のレースを展開した。最終的には奥野と大東文化大学の田山絵理が同タイムでゴール、僅差で奥野が優勝を勝ち取った。

なお、優勝した奥野ら5名が、8月24日に開催される第31回ニューカレドニア国際マラソンのハーフマラソン代表に内定した。



ハーフ 左から、優勝の奥野有紀子(京産大)、同タイムで2位の田山絵理(大東大)、3位の鈴木ひとみ(玉川大)

## 【平成25年度中四国学連春季選抜強化合宿報告】

中四国学生陸上競技連盟 ヘッドコーチ 村上 雅俊

中四国学連所属学生の競技力向上を目的に、平成26年2月26日～28日に広島県コカコーラウェスト総合グラウンドにて春季選抜強化合宿を開催した。

実施した種目は、100m・200m（コーチ；松田亮先生・広経大）、中長距離（コーチ；鶴崎健一先生・福山大）、ハードル（コーチ；前村公彦先生・環太大）、走高跳（コーチ；松下裕輝先生・中京大）、三段跳（コーチ；津田幸保先生・美作大）、やり投（コーチ；村上雅俊・徳山大）の6種目であった。

選手の選抜については、4年生を除く年間の中四国学生ランキングをもとに各種目男女上位10名程度を選出し、総勢100名を超える規模となり、また、自主的に参加する意欲の高い学生も多数認められた。

ここでは2種目の活動内容について簡単に紹介す

る。短距離パートでは、松田先生ご自身が取り組まれたトレーニング内容を学生とともに実施・指導を展開された。また、走高跳パートをご担当された松下先生は、アメリカでのご研究内容をもとにした講義やドリル紹介など豊富な指導を展開して頂いた。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

この春季選抜合宿は、6年前に競技力向上を目的に再開された。近年の中四国学連所属の学生の競技レベルが向上している背景の一つとして、この合宿によって学生間の技術交流や指導者の情報共有などが促進されていることが考えられる。引き続き中四国学連の競技力向上に貢献する活動を行っていきたいと考えている。改めて、関係者の皆様に感謝申し上げます。

# 公益社団法人日本学生陸上競技連合

## 第9回理事会 議事録

### 1. 開催された日時

平成26年3月1日(土)12時54分から14時48分まで

### 2. 開催された場所

L M J 東京研修センター 5階特大会議室

### 3. 理事総数及び定足数

現在数23名、定足数12

### 4. 出席理事数

18名

(出席) 関岡 康雄、青葉 昌幸、神尾 正俊、  
浅見美弥子、阿保 雅行、伊東 輝雄、岩壁 達男、  
片峯 隆、金子今朝秋、栗山 佳也、澤木 啓祐、  
三條 俊彦、永井 純、永井 立子、藤井 邦夫、  
外園 隆、米谷 元捷、和田 正信

(欠席) 保利 耕輔、尾縣 貢、蒲原 一之、

小山 裕三、杉田 正明

(監事出席) 黒岩 重幸

(オブザーバー出席) 岡田 晃、吉村 篤司、

板東 孝訓、大西 清司

### 5. 議題

#### 報告事項

①前回理事会以降の会務の報告 (資料1)

②平成25年に誕生した日本学生記録の報告  
(資料2)

③公益財団法人日本陸上競技連盟の会議等の報告

④世界大学クロスカントリー大会派遣について  
(資料3)

⑤その他

#### 協議事項

第1号議案「平成26年度事業計画(案)について」  
(資料4)

第2号議案「平成26年度収支予算(案)について」  
(資料5)

第3号議案「平成26年度主催競技会要項(案)の承

認の件 (資料6)

第4号議案「平成26年度・27年度理事・監事候補者  
及び名誉会長・顧問・参与等について」

(資料7)

第5号議案「平成26年度正会員入会承認の件及び名  
誉会員推薦の件」 (資料8)

第6号議案「平成26年度・27年度専門委員会委員承  
認の件」 (資料9)

第7号議案「定款・規程改定について」 (資料10)

第8号議案「平成25年度栄章受章候補者の承認の件」  
(資料11)

第9号議案「平成25年度会員入会の承認の件」

(資料12)

第10号議案「第5回定時社員総会について」

(資料13)

第11号議案「その他」

### 6. 議事の経過及びその結果

#### (1)定足数の確認

会に先立ち、前回理事会以降にご逝去された伊藤  
晃東海学生陸上競技連盟会長及び太田剛名誉会員に  
対し、出席者全員で黙祷がささげられた。

また、大西清司事務局長が定足数の充足を確認し  
た。

#### (2)議長及び議事録署名人の選出

関岡康雄副会長が議長となり、本会議の開会を宣  
した。

議事録署名人は定款第33条に基づき、関岡康雄副  
会長、黒岩重幸 監事となった。

#### (3)議案の審議状況及び議決結果等

##### 報告事項

①前回理事会以降の会務の報告 (資料1)

神尾正俊専務理事から、資料1に基づき報告が  
あった。

また、平成26年2月9日(日)に開催予定だった「第  
49回千葉国際クロスカントリー大会」が中止と  
なったため、平成26年2月22日(土)に開催された  
「第28回福岡国際クロスカントリー大会」におい

て「第19回世界大学クロスカントリー選手権大会」へ派遣する日本代表選手を選考したことが報告された。

②平成25年に誕生した日本学生記録の報告(資料2)

板東孝訓幹事長から、資料2に基づき報告があった。

③公益財団法人日本陸上競技連盟の会議等の報告

大西清司事務局長から法制委員会において広告規程の適用範囲の解釈に関する議論があり、国際陸上競技連盟が関係するような国際的な競技会においては大学のユニフォームのマークが違反となる可能性があるので注意が必要なこと、

板東孝訓幹事長から全国競技運営責任者会議において競技規則の修正や各都道府県陸協での競技運営上の工夫等に関する議論があったことが報告された。

④世界大学クロスカントリー大会の派遣について

(資料3)

金子今朝秋理事から、資料3に基づき報告があった。

⑤その他

神尾正俊専務理事から、「全日本大学女子選抜駅伝競走の来年度の開催に向けて、開催日を調整中であること及び公益財団法人日本陸上競技連盟秩父宮章の学連からの受章推薦者として金子今朝秋理事を推薦したことが報告された。

協議事項

第1号議案「平成26年度事業計画(案)について」

(資料4)

神尾正俊専務理事から、資料4に基づき平成26年度事業計画(案)についての提案があった。

また、資料4の普通会員数、名誉会員数及び賛助会員数は見込みの会員数であることの説明があった。

本議案において、次の意見及び質疑応答があった(澤木啓祐理事) ニューカレドニアへの選手の派遣について、強化委員会のロード競技対策部で議論はされているのか。

(伊東輝雄理事) 派遣時期が日本インカレと近くなったことを考慮しつつ、できるだけ選手を派遣する方向で考えている。ただし、日本インカレを軽視するわけにはいかないし、派遣対象となった

選手のレベルがあまりにも低い場合には派遣しないことも考えている。

(澤木啓祐理事) 消化試合とならないようにしていただきたい。

(関岡康雄副会長) 選手団の派遣を始めた当初は、フルマラソンに派遣していたので、学生をマラソンに派遣することも検討していただきたい。

(伊東輝雄理事) ユニバーシアード競技大会の種目がハーフマラソンであり、ユニバーシアード競技大会での入賞を一つの目標としている。マラソンへの派遣については、今後ロード競技対策部で検討していく。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第2号議案「平成26年度収支予算(案)について」

(資料5)

神尾正俊専務理事から、資料5に基づき平成26年度収支予算(案)についての提案があった。

平成26年度経常収益は、受取会費の算出は、資料4の会員数に基づいていること、受取協賛金対前年1,280,000円増額になること、入場料等売上げ4,000,000円減額になること、受取助成金1,100,000円減額になること等、合計が対前年比△3,135,000円の105,915,000円となる説明があった。経常費用においては、旅費交通費と諸謝金は、平成26年度、ユニバーシアード競技大会の開催されない年度であるため減額となっていること、日本インカレが熊谷で開催されるため、賃借料が減額されること、印刷製本費と委託費において、勘定科目の変更をしたため、対前年の数字に対して差異が生じていること、合計では対前年△7,880,000円の105,170,000円とし、当期経常増減額を745,000円とする説明があった。

また、平成26年度正味財産増減予算書に反映できない予算として、別紙、資金収支ベースの収支予算書の投資活動収支の部で説明があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第3号議案「平成26年度主催競技会要項(案)の承認の件」

(資料6)

金子今朝秋理事から、資料6に基づき平成26年度主催競技会要項(案)についての提案があった。

また、提案の際に「秩父宮賜杯第54回実業団・学

生對抗陸上競技大会」の開催日程については「第17回アジア競技大会」及び「第69回国民体育大会」に出場する競技者のことを考慮した結果であることの説明があった。

本議案において、次の意見及び質疑応答があった。  
(岩壁達男理事)日本インカレの標準記録について、A標準とB標準は上がっているのにC標準はそのままなのか。また、記録を突破しているわけではないので、標準記録Cという表記はなんとかならないのか。

(金子今朝秋理事)強化委員会でも議論し、次回大会の標準記録から検討していく。

(阿保雅行理事)競技運営の観点から、長距離種目で周回遅れが発生した場合は失格とすることができないかを強化委員会と検討していく。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

#### **第4号議案「平成26年度・27年度理事・監事候補者及び名誉会長・顧問・参与等について」** (資料7)

神尾正俊専務理事から、資料7に基づき平成26年度・27年度理事・監事候補者についての提案があった。

また、提案の際に平成26年6月14日(土)に開催予定である第5回定時社員総会後に開催予定の臨時理事会において、会長、副会長及び専務理事の選任を行うことの説明があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

#### **第5号議案「平成26年度正会員入会承認の件及び名誉会員推薦の件」** (資料8)

神尾正俊専務理事から、資料8に基づき平成26年度正会員入会の承認及び名誉会員の推薦についての提案があった。

本議案において、次の意見及び質疑応答があった。  
(三條俊彦理事)名誉会員と名誉会長を兼ねる事はできないのか。保利耕輔会長を名誉会員に追加しないのか。

(神尾正俊専務理事)追加させていただく。

(栗山佳也理事)本連盟の蔭山会長が今季限りで退任するので変更する場合がある。

(関岡康雄副会長)変更等が生じる場合については、今後精査していただき、関西学連枠の正会員

の変更は、関西学連で取りまとめていただきたい。(大西清司事務局長)各連盟も含め、次回理事会までに提案いただければ対応する。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

#### **第6号議案「平成26年度・27年度専門委員会委員承認の件」** (資料9)

神尾正俊専務理事から、資料9に基づき平成26年度・27年度専門委員会委員の承認についての提案があった。

また、提案の際に、平成26年度の新しい体制に移行することで、委員の追加及び変更等があれば次回理事会までに提案いただきたい旨の説明があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

#### **第7号議案「定款・規程改定について」** (資料10)

神尾正俊専務理事から、資料10に基づき定款・規程改定についての提案があった。

また、提案の際に常務理事は専務理事を補佐する役割を担うことから、業務執行理事とする説明があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決し、定款改定の部分については、社員総会への提案事項とした。

#### **第8号議案「平成25年度栄章受章候補者の承認の件」** (資料11)

神尾正俊専務理事から、資料11に基づき平成25年度栄章受章候補者の承認についての提案があった。

また、提案の際に本理事会に先立って行われた栄章審査委員会において審査が行われたことの説明があった。

本議案において、次の意見及び質疑応答があった。

(澤木啓祐理事)勲功章の受章対象について、ユニバーシアード競技大会で3位までに入賞した者と世界記録を更新した者と同じに扱っていいのか。

(神尾正俊専務理事)今後規程改定の検討をしていく。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。



**第9号議案「平成25年度会員入会の承認の件」**

(資料12)

神尾正俊専務理事から、資料12に基づき平成25年度会員入会の承認についての提案があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

**第10号議案「第5回定時社員総会について」**

(資料13)

神尾正俊専務理事から、資料13に基づき第5回定

時社員総会の開催日時及び場所についての提案があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

**第11号議案「その他」**

なし

以上をもって議案の審議等を終了したので、14時48分、議長は閉会を宣し、解散した。

**資料4**

**公益社団法人日本学生陸上競技連合 平成26年度事業計画**

(事業目的)

公益社団法人日本学生陸上競技連合(以下、「この法人」という。)は、日本の学生陸上競技界を統括し、かつ代表する学生の競技団体として、学生陸上競技の普及・振興を図り、学生の心身の健全な発達と明るく豊かな学生生活の形成に寄与することを目的とする法人である。

(基本方針)

以上を目的とし、本年度は次の3点を軸に事業計画を策定した。

- (1) 学生陸上競技に関する競技会を円滑に開催する。
- (2) 学生陸上競技界の競技力向上を図るため、競技者の国際競技会への派遣及び外国の学生競技者の国内競技会への招致を積極的に推進する。
- (3) 陸上競技の普及・振興を図るため、関係団体と協力し競技者が快適に競技に取り組むことが出来る環境の整備を推進する。

**■公益目的事業**

公1-競技会

No.	競技会	期日	場所	種目数	参加校・参加数	備考
1	2014日本学生陸上競技個人選手権大会	2014年 6月20日(金) ～22日(日)	Shonan BMW スタジアム平塚	男子18 女子18	120校…700名 110校…600名	スポーツ振興基金助成金を申請
2	天皇賜盃第83回日本学生陸上競技対校選手権大会	2014年 9月5日(金) ～7日(日)	熊谷スポーツ文化公園・陸上競技場	男子22 女子22	115校…900名 115校…800名	【表彰】天皇賜盃<男子総合優勝> 秩父宮妃杯<女子総合優勝> スポーツ振興基金助成金を申請
3	秩父宮賜杯第54回実業団・学生対抗陸上競技大会	2014年 9月21日(日)	小田原市城山陸上競技場	男子10 女子10		【後援】文部科学省(予定) 秩父宮賜杯<総合優勝> 内閣総理大臣杯(予定)<総合優勝> 文部科学大臣杯(予定) <男子団体優勝> 厚生労働大臣賞(予定) <女子団体優勝> →申請予定
4	第26回出雲全日本大学選抜駅伝競走	2014年 10月13日(月・祝)	出雲市44.5km 全6区間		国内…23チーム 海外…1チーム	【後援】文部科学省(予定) 【表彰】内閣総理大臣杯(予定)<優勝校> 文部科学大臣賞(予定)<優勝校> →申請予定
5	第32回全日本大学女子駅伝対校選手権大会	2014年 10月26日(日)	仙台市全6区間		(25)校+1チーム (東北学連選抜)	【後援】文部科学省(予定) 【表彰】文部科学大臣杯(予定)<優勝チーム> →申請予定
6	秩父宮賜杯第46回全日本大学駅伝対校選手権大会	2014年 11月2日(日)	名古屋-伊勢 106.8km全8区間		(25)校+1チーム (東海学連選抜)	【後援】文部科学省(予定) 【表彰】文部科学大臣杯(予定)<優勝チーム> →申請予定
7	2014全日本大学女子選抜駅伝競走	2014年 12月(未定)	富士宮市富士市 43.4km全7区間		20チーム(予定)	【後援】文部科学省(予定) 【表彰】文部科学大臣杯(予定)<優勝チーム> →申請予定
8	第18回日本学生ハーフマラソン選手権大会	2015年 3月1日(日)	立川市		1200名	
9	第9回日本学生20km競歩選手権大会	2015年 3月15日(日)	能美市		男子…80名 女子…30名	
10	第18回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会	2015年 (未定)	松江市			

公2-育成①競技者育成(競技会派遣)事業

No.	競技会等	期日	場所	備考
1	香港インターシティー2014	2014年7月 日(日)	香港	男子…3名 女子…3名 役員…2名日本陸連U23強化費による遠征
2	ニューカレドニア・ハーフマラソン大会	2014年8月24日(日)	ニューカレドニア(ヌーメア)	男子…5名 女子…5名 役員…2名
3	2014国際千葉駅伝	2014年11月23日(日・祝)	千葉市	男子…4名 女子…4名 役員…3名
4	第50回千葉国際クロスカントリー大会	2015年2月8日(日)	千葉市	【主催】公益財団法人日本陸上競技連盟 →共催として参画
5	第29回福岡国際クロスカントリー大会	2015年2月21日(土)	福岡市	【主催】公益財団法人日本陸上競技連盟 →共催として参画

公2- 育成 ②競技者・指導者・審判育成事業

No.	競技会等	期日	場所	備考
1	競技力向上のための巡回指導	3回	各地	
2	競技者育成費用負担	2大会		北日本インカレ30万円、西日本インカレ50万円
3	ドーピング・コントロールテスト	4回	各地	公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構及び公益財団法人日本陸上競技連盟との連携により競技会検査を実施
4	新規B級審判員資格認定	各地区で講習会を実施	各地	1,400名 (男子…1,000名 女子…400名)
5	学生審判員研修会	2回～	各地	
6	第60回指導者会議	未定	未定	

公3- 調査・研究

No.	事業	期日・回数	場所	備考
1	陸上競技の研究調査	年4回		「陸上競技研究」の発行
2	第13回陸上競技学会	年1回		共催として参画
3	第60回指導者会議	未定	未定	
4	2014年日本学生記録集の発行 (記録年鑑)	2015年3月		1,000部発行 学生50傑、主催大会、関連競技会

■法人管理部門

組織力管理

No.	事業	期日・回数	場所	備考
1	理事会	年5回	未定	臨時理事会を行う場合もある
2	定時社員総会	年1回	未定	臨時社員総会を行う場合もある
3	第40回学生幹部役員研修会	年1回 2～3月	未定	
4	会報の刊行	年3回		各回 1,000部(正会員、名誉会員、役員、地区学連加盟校に配布) 内容 事業の報告、会議議事録等
5	ホームページの運営	随時		日本学連公式ホームページ・携帯サイトの運営
6	会員の入会受付	2014年度		正会員…135名普通会員(学生)…18,500名 (男子…14,000名 女子…4,500名)名誉会員…50名 賛助会員…20名

資料5—①

平成26年度正味財産増減予算書  
平成26年4月1日～平成27年3月31日まで

公益社団法人日本学生陸上競技連合

(単位円)

	公益目的事業会計 (内訳表)				公益目的事業 会計合計	法人 会計	内部取引 控除	平成26年度 予算合計 (A)	平成25年度 予算 (C)	増減 (A-C)
	公1	公2	公3	共通						
<b>I 一般正味財産増減の部</b>										
<b>1. 経常増減の部</b>										
(1) 経常収益										
基本財産運用益	0	0	0	5,000	5,000	5,000	0	10,000	15,000	△ 5,000
基本財産利息	0	0	0	5,000	5,000	5,000	0	10,000	15,000	△ 5,000
特定資産運用益	0	0	0	90,000	90,000	0	0	90,000	80,000	10,000
特定資産利息	0	0	0	90,000	90,000	0	0	90,000	80,000	10,000
受取会費	0	0	0	17,087,500	17,087,500	17,387,500	0	34,475,000	33,960,000	1,115,000
正会員受取会費	0	0	0	337,500	337,500	337,500	0	675,000	660,000	15,000
普通会員受取会費	0	0	0	16,650,000	16,650,000	16,650,000	0	33,300,000	32,400,000	900,000
賛助会員受取会費	0	0	0	100,000	100,000	400,000	0	500,000	300,000	200,000
陸上競技研究受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	600,000	△ 600,000
受取補助金	0	0	0	100,000	100,000	0	0	100,000	100,000	0
受取補助金	0	0	0	100,000	100,000	0	0	100,000	100,000	0
事業収益	56,430,000	5,000,000	50,000	0	61,480,000	0	0	61,480,000	64,530,000	△ 3,050,000
受取協賛金	28,280,000	5,000,000	0	0	33,280,000	0	0	33,280,000	32,000,000	1,280,000
受取協力金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放映料	17,250,000	0	0	0	17,250,000	0	0	17,250,000	16,800,000	450,000
受取参加料	5,800,000	0	0	0	5,800,000	0	0	5,800,000	6,180,000	△ 380,000
受取広告金	1,000,000	0	0	0	1,000,000	0	0	1,000,000	1,400,000	△ 400,000
入場料等売上	4,100,000	0	50,000	0	4,150,000	0	0	4,150,000	8,150,000	△ 4,000,000
受取負担金	5,595,000	450,000	0	0	6,045,000	0	0	6,045,000	5,550,000	495,000
受取負担金	5,595,000	450,000	0	0	6,045,000	0	0	6,045,000	5,550,000	495,000
受取寄付金	3,400,000	0	0	10,000	3,410,000	0	0	3,410,000	4,510,000	△ 1,100,000
受取寄付金	0	0	0	10,000	10,000	0	0	10,000	10,000	0
受取助成金	3,400,000	0	0	0	3,400,000	0	0	3,400,000	4,500,000	△ 1,100,000
雑収益	20,000	0	0	0	20,000	285,000	0	305,000	305,000	0
受取利息	0	0	0	0	0	10,000	0	10,000	10,000	0
雑収益	20,000	0	0	0	20,000	275,000	0	295,000	295,000	0
<b>経常収益計</b>	<b>65,445,000</b>	<b>5,450,000</b>	<b>50,000</b>	<b>17,292,500</b>	<b>88,237,500</b>	<b>17,677,500</b>	<b>0</b>	<b>105,915,000</b>	<b>109,050,000</b>	<b>△ 3,135,000</b>

平成26年度正味財産増減予算書  
平成26年4月1日～平成27年3月31日まで  
公益社団法人日本学生陸上競技連合

(単位円)

	公益目的事業会計 (内訳表)				公益目的事業 会計合計	法人 会計	内部取引 控除	平成26年度 予算合計 (A)	平成25年度 予算 (C)	増減 (A-C)
	公1	公2	公3	共通						
<b>(2) 経常費用</b>										
事業費	70,962,800	13,202,500	7,291,300	0	91,456,600	0	0	91,456,600	98,668,000	△ 7,211,400
給料手当	5,632,000	1,024,000	512,000	0	7,168,000	0	0	7,168,000	6,300,000	868,000
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
法定福利費	825,000	150,000	75,000	0	1,050,000	0	0	1,050,000	770,000	280,000
会議費	1,987,200	2,097,600	220,800	0	4,305,600	0	0	4,305,600	3,471,000	834,600
旅費交通費	25,575,000	6,138,000	341,000	0	32,054,000	0	0	32,054,000	35,250,000	△ 3,196,000
通信運搬費	668,800	457,600	35,200	0	1,161,600	0	0	1,161,600	990,000	171,600
印刷製本費	3,675,000	105,000	5,565,000	0	9,345,000	0	0	9,345,000	5,340,000	4,005,000
水道光熱費	122,500	52,500	0	0	175,000	0	0	175,000	200,000	△ 25,000
食糧費	3,120,000	0	0	0	3,120,000	0	0	3,120,000	3,600,000	△ 480,000
消耗品費	2,584,000	152,000	30,400	0	2,766,400	0	0	2,766,400	2,660,000	106,400
備品費	22,000	40,000	0	0	62,000	0	0	62,000	62,000	0
賃借料	3,600,000	1,050,000	75,000	0	4,725,000	0	0	4,725,000	8,255,000	△ 3,530,000
リース料	124,800	499,200	0	0	624,000	0	0	624,000	1,040,000	△ 416,000
諸謝金	165,000	155,100	9,900	0	330,000	0	0	330,000	1,400,000	△ 1,070,000
表彰費	1,107,000	123,000	0	0	1,230,000	0	0	1,230,000	1,800,000	△ 570,000
医務費	378,000	42,000	0	0	420,000	0	0	420,000	700,000	△ 280,000
渉外費	129,000	43,000	43,000	0	215,000	0	0	215,000	800,000	△ 585,000
委託費	4,650,000	50,000	50,000	0	4,750,000	0	0	4,750,000	9,595,000	△ 4,845,000
租税公課	800,000	0	0	0	800,000	0	0	800,000	800,000	0
支払負担金	14,926,500	802,500	321,000	0	16,050,000	0	0	16,050,000	14,400,000	1,650,000
雑費	871,000	221,000	13,000	0	1,105,000	0	0	1,105,000	1,235,000	△ 130,000
管理費						13,713,400		13,713,400	14,382,000	△ 668,600
給料手当				0	0	3,072,000	0	3,072,000	2,700,000	372,000
退職給付費用				0	0	300,000	0	300,000	300,000	0
法定福利費				0	0	450,000	0	450,000	330,000	120,000
会議費				0	0	1,214,400	0	1,214,400	979,000	235,400
旅費交通費				0	0	2,046,000	0	2,046,000	2,250,000	△ 204,000
通信運搬費				0	0	598,400	0	598,400	510,000	88,400
印刷製本費				0	0	1,155,000	0	1,155,000	660,000	495,000
水道光熱費				0	0	175,000	0	175,000	200,000	△ 25,000
消耗品費				0	0	273,600	0	273,600	140,000	133,600
備品費				0	0	38,000	0	38,000	38,000	0
賃借料				0	0	2,775,000	0	2,775,000	4,445,000	△ 1,670,000
リース料				0	0	156,000	0	156,000	260,000	△ 104,000
渉外費				0	0	215,000	0	215,000	200,000	15,000
委託費				0	0	250,000	0	250,000	505,000	△ 255,000
租税公課				0	0	800,000	0	800,000	800,000	0
雑費				0	0	195,000	0	195,000	65,000	130,000
<b>経常費用計</b>	70,962,800	13,202,500	7,291,300	0	91,456,600	13,713,400	0	105,170,000	113,050,000	△ 7,880,000
<b>当期経常増減額</b>	△ 5,517,800	△ 7,752,500	△ 7,241,300	17,292,500	△ 3,219,100	3,964,100	0	745,000	△ 4,000,000	
<b>2. 経常外増減の部</b>										
<b>(1) 経常外収益</b>										
経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>経常外収益計</b>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>(2) 経常外費用</b>										
経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>経常外費用計</b>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>当期経常外増減額</b>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>当期一般正味財産増減額</b>	△ 5,517,800	△ 7,752,500	△ 7,241,300	17,292,500	△ 3,219,100	3,964,100	0	745,000	△ 4,000,000	
一般正味財産期首残高								0	0	
一般正味財産期末残高	△ 5,517,800	△ 7,752,500	△ 7,241,300	17,292,500	△ 3,219,100	3,964,100	0	745,000	△ 4,000,000	
<b>Ⅱ 指定正味財産増減の部</b>										
当期指定正味財産増減額								0	0	
指定正味財産期首残高								0	0	
指定正味財産期末残高								0	0	
<b>Ⅲ 正味財産期末残高</b>	△ 5,517,800	△ 7,752,500	△ 7,241,300	17,292,500	△ 3,219,100	3,964,100	0	745,000	△ 4,000,000	

現行規定	改定案	備考
<p>第4章 社員総会</p> <p>(開催)</p> <p>第14条 社員総会は、毎年度2回(6月及び3月)開催するほか、必要がある場合に開催する。</p> <p>2 毎年度6月に開催する社員総会を一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第36条第1項に規定される定時社員総会とする。</p> <p>第11章 資産及び会計</p> <p>(事業計画及び収支予算)</p> <p>第43条 この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度の開始の日の前日までに、会長が作成し、<u>理事会の決議を経て、社員総会の承認を受けなければならない</u>。これを変更する場合も同様とする。</p>	<p>第4章 社員総会</p> <p>(開催)</p> <p>第14条 社員総会は、<u>毎事業年度終了後、3箇月以内に1回開催する</u>ほか、必要がある場合に臨時総会を開催する。</p> <p>2 <u>毎事業年度終了後3箇月以内に開催する社員総会を一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第36条第1項に規定される定時社員総会とする。</u></p> <p>第11章 資産及び会計</p> <p>(事業計画及び収支予算)</p> <p>第43条 この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度の開始の日の前日までに、会長が作成し、<u>理事会の承認を受けなければならない</u>。これを変更する場合も同様とする。</p>	<p>状況により5月開催も可能にし、柔軟性を持たせる。</p>
<p>(役員)</p> <p>第21条 この法人に、次の役員を置く。</p> <p>(1) 理事 18名以上23名以内</p> <p>(2) 監事 1名以上2名以内</p> <p>2 理事のうち1名を会長、3名以内を副会長、1名を専務理事とする。</p> <p>3 前項の会長及び副会長のうち1名以内をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表理事とする。</p> <p>4 前項の代表理事である副会長を除く副会長2名以内及び専務理事をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第91条第1項第2号の業務執行理事とする。</p> <p>(選任)</p> <p>第22条 理事及び監事は、社員総会の決議によって選任する。</p> <p>2 前条第2項に規定される会長、副会長、専務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。</p> <p>(理事の職務及び権限)</p> <p>第23条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。</p> <p>2 会長及び代表理事である副会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、業務執行理事である副会長及び専務理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。</p> <p>3 会長、副会長及び専務理事は、毎事業年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。</p>	<p>第21条 この法人に、次の役員を置く。</p> <p>(1) 理事 18名以上23名以内</p> <p>(2) 監事 1名以上2名以内</p> <p>2 <u>理事のうち1名を会長、3名以内を副会長、1名を専務理事とする。さらに常務理事3名以内を置くことができる。</u></p> <p>3 前項の会長及び副会長のうち1名以内をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表理事とする。</p> <p>4 前項の代表理事である副会長を除く副会長2名以内、専務理事及び常務理事をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第91条第1項第2号の業務執行理事とする。</p> <p>(選任)</p> <p>第22条 理事及び監事は、社員総会の決議によって選任する。</p> <p>2 前条第2項に規定される会長、副会長、専務理事及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。</p> <p>(理事の職務及び権限)</p> <p>第23条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。</p> <p>2 会長及び代表理事である副会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、業務執行理事である副会長、専務理事及び常務理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。</p> <p>3 会長、副会長、専務理事及び常務理事は、毎事業年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。</p>	<p>常務理事職追加</p> <p>常務理事も業務執行理事となる</p>

## 定款

現在の表記	変更	備考
<p>別表2 基本財産</p> <p>(財産の種類) (預金先等) (金額)</p> <p>定期預金 三井住友銀行 25,000,000円</p>	<p>別表2 基本財産</p> <p>(財産の種類) (預金先等) (金額)</p> <p>定期預金 三井住友銀行 25,000,000円</p> <p>秩父宮妃記念基金 川崎市債権 10,000,000円</p>	<p>平成24年度決算にて変更(2013/5)社員総会承認済</p>



財務・経理規程改定について

現行規定	改定案	備考
<p>(予算の編成方針) 第14条 予算案は、編成方針として次の項目を反映させて策定する。 (1) 事業年度における事業計画 (2) 過去の実績 (3) 将来の見通し (4) 理事会で協議された事案 (5) その他、財務委員が必要と認めた事案</p> <p>(予算案の策定の手続き) 第15条 予算案は、財務委員会が予算案を策定し、必要に応じて専門委員長の意見を聴取し、専務理事の承認を経て、理事会に諮る。 2 予算案は、理事会の協議を経て、社員総会の決議で決定する。</p>	<p>(予算の編成方針) 第14条 予算案は、編成方針として次の項目を反映させて策定する。 (1) 事業年度における事業計画 (2) 過去の実績 (3) 将来の見通し (4) 理事会で協議された事案 (5) その他、<u>業務執行理事及び財務委員が必要と認め</u>た事</p> <p>(予算案の策定の手続き) 第15条 予算案は、<u>毎事業年度開始前に会長が作成し、理事会の決議で決定する。</u> <u>2 会長は予算案の編成にあたり、必要に応じて専門委員長の意見を聴取し、その事務を事務局長に行わせるものとする。</u> <u>3 前項の予算案は、毎事業年度開始の日の前日までに、行政庁に提出しなければならない。</u></p>	<p>業務執行理事を追加 理事会にて成立</p>

委員会規程改定について

現行規定	改定案	備考
<p>(委員) 第4条 委員は、会員及び学識経験者のうちから、理事会で選任する。 2 委員会の委員は、委員会ごとに以下の範囲で選任する。 ⑦調査研究委員会 8名～10名</p>	<p>(委員) 第4条 委員は、会員及び学識経験者のうちから、理事会で選任する。 2 委員会の委員は、委員会ごとに以下の範囲で選任する。 ⑦調査研究委員会 8名～<u>15名</u></p>	

資料 2

2013年(平成25年)に誕生した日本学生記録

【男子】							
種目	記録	氏名	大学名	月日	競技会名	会場	備考
棒高跳	5.71	山本 聖途	中京大	2/3	日本ジュニア室内	大阪城ホール	室内日本新学生新
30km	1.29.55.	設楽 啓太	東洋大	2/17	熊日30km	熊本	学生新
10kmW	39.23.	西塔 拓己	東洋大	2/17	日本選手権20km競歩	神戸	学生新
20kmW	1.20.05.	西塔 拓己	東洋大	2/17	日本選手権20km競歩	神戸	学生新
円盤投	58.84	堤 雄司	国士館大	4/27	選抜陸上和歌山	紀三井寺	学生新
200m	20.21	飯塚 翔太	中央大	5/3	静岡国際	エコパ	学生新
棒高跳	5.74	山本 聖途	中京大	5/18	東海学生対校	瑞穂	学生新
棒高跳	5.75	山本 聖途	中京大	6/23	日本学生個人	平塚	学生新
棒高跳	5.75	山本 聖途	中京大	8/12	世界選手権	モスクワ	学生タイ
円盤投	59.21	堤 雄司	国士館大	9/8	日本学生対校	国立	学生新
4×200m R	1.22.41	早稲田大 (木村、竹下、愛敬、永沼)		9/22	早慶対抗	早大	日本新
4×100m R	38.44	日本 (山縣、飯塚、 ケンブリッジ、大瀬戸)		10/9	東アジア大会	天津	学生新(混)
10000m W	39.06.87	高橋 英輝	岩手大	12/8	長崎陸協競歩	長崎総合	日本新
【女子】							
種目	記録	氏名	大学名	月日	競技会名	会場	備考
3000m S C	10.06.43	中村真悠子	筑波大	9/8	日本学生対校	国立	学生新
4×200m R	1.39.10	甲南大 (寺井、五十嵐、荒井、斎藤)		10/20	日本記録挑戦競技会	住友総合	学生新
4×200m R	1.37.98	東大阪大 (上山、名倉、正垣、三木)		10/20	日本記録挑戦競技会	住友総合	学生新

# 公益社団法人日本学生陸上競技連合

## 第4回定時社員総会 議事録

※以下の議事録中の資料1～資料13は、スペースの関係で掲載を省略します。協議事項の第1号議案～第3号議案の資料は、理事会議事録と同じですのでP17～を参照願います。

### 1. 開催された日時

平成26年3月1日(土) 15時03分～16時18分

### 2. 開催された場所

L M J 東京研修センター5階特大会議室

### 3. 正会員総数及び定足数

現在数134名、定足数68

### 4. 出席正会員数

91名	(本人出席)	41名
	(委任出席)	50名

### 5. 議題

#### 協議事項

- 第1号議案「平成26年度事業計画(案)について」  
(資料1)
- 第2号議案「平成26年度収支予算(案)について」  
(資料2)
- 第3号議案「定款改定について」  
(資料3)
- [報告事項]
- ①前回社員総会以降の会務の報告 (資料4)
- ②平成25年に誕生した日本学生記録の報告(資料5)
- ③公益財団法人日本陸上競技連盟の会議等の報告
- ④世界大学クロスカントリー大会派遣について  
(資料6)
- ⑤平成26年度主催競技会要項について (資料7)
- ⑥平成26年度・27年度理事・監事候補者及び名誉会長・顧問・参与について (資料8)
- ⑦平成26年度正会員入会の件及び名誉会員推薦の件  
(資料9)
- ⑧平成26年度・27年度専門委員会委員について  
(資料10)
- ⑨平成25年度栄章受章者について (資料別添)
- ⑩平成25年度会員入会について (資料11)
- ⑪規程改定について (資料12)
- ⑫第5回定時社員総会について (資料13)
- ⑬その他

### 6. 議事の経過及びその結果

#### (1)定足数の確認

会に先立ち、前回理事会以降にご逝去された伊藤

晃東海学生陸上競技連盟会長及び太田剛名誉会員に対し、出席者全員で黙祷がさげられた。

また、大西清司事務局長が定足数の充足を確認した。

#### (2)議長及び議事録署名人の選出

定款第16条に基づき、関岡康雄副会長が議長となり、本会議の開会を宣した。

議事録署名人は定款第20条に基づき、関岡康雄副会長並びに出席した正会員のうちから選出された赤峰俊彦会員及び田中右一会員となった。

#### (3)議案の審議状況及び議決結果等

#### 協議事項

第1号議案「平成26年度事業計画(案)について」  
(資料1)

神尾正俊専務理事から、資料1に基づき平成26年度事業計画(案)についての提案があった。

また、「全日本大学女子選抜駅伝競走」は来年度の開催に向けて、開催日を調整中であることの説明があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席正会員全員一致で可決した。

第2号議案「平成26年度収支予算(案)について」  
(資料2)

神尾正俊専務理事から、資料5に基づき平成26年度収支予算(案)についての提案があった。

平成26年度経常収益は、受取会費の算出は、資料4の会員数に基づいていること、受取協賛金対前年1,280,000円増額になること、入場料等売上げ4,000,000円減額になること、受取助成金1,100,000円減額になること等、合計が対前年比△3,135,000円の105,915,000円となる説明があった。経常費用においては、旅費交通費と諸謝金は、平成26年度、ユニバーシアード競技大会の開催されない年度であるため減額となっていること、日本インカレが熊谷で開催されるため、賃借料が減額されること、印刷製本費と委託費において、勘定科目の変更をしたため、対前年の数字に対して差異が生じていること、合計では対前年△7,880,000円の

105,170,000円とし、当期経常増減額を745,000円とする説明があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席正会員全員一致で可決した。

### 第3号議案「定款改定について」 (資料3)

神尾正俊専務理事から、資料3に基づき定款改定についての提案があった。

また、提案の際に常務理事は専務理事を補佐する役割を担うことから、業務執行理事とする説明があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席正会員全員一致で可決した。

## 報告事項

### ①前回社員総会以降の会務の報告 (資料4)

神尾正俊専務理事から、資料4に基づき報告があった。

また、平成26年2月9日(日)に開催予定だった「第49回千葉国際クロスカントリー大会」が中止となったため、平成26年2月22日(土)に開催された「第28回福岡国際クロスカントリー大会」において「第19回世界大学クロスカントリー選手権大会」へ派遣する日本代表選手を選考したことが報告された。

### ②平成25年に誕生した日本学生記録の報告 (資料5)

板東孝訓幹事長から、資料5に基づき報告があった。

### ③公益財団法人日本陸上競技連盟の会議等の報告

大西清司事務局長から法制委員会において広告規程の適用範囲の解釈に関する議論があり、国際陸上競技連盟が関係するような国際的な競技会においては大学のユニフォームのマークが違反となる可能性があるので注意が必要なこと、

板東孝訓幹事長から全国競技運営責任者会議において競技規則の修正や各都道府県陸協での競技運営上の工夫等に関する議論があったことが報告された。

### ④世界大学クロスカントリー大会の派遣について (資料6)

金子今朝秋理事から、資料6に基づき報告があった。

### ⑤平成26年度主催競技会要項について (資料7)

金子今朝秋理事から、資料7に基づき報告があった。

### ⑥平成26年度・27年度理事・監事候補者について (資料8)

神尾正俊専務理事から、資料4に基づき報告があった。

また、報告の際に平成26年6月14日(土)に開催予定である第5回定時社員総会後に開催予定の臨時理事会において、会長、副会長及び専務理事の選任を行うことの説明があった。

### ⑦平成26年度正会員入会の件及び名誉会員推薦の件 (資料9)

神尾正俊専務理事から、資料9に基づき報告があった。

今後、変更がある場合は、次回理事会に提案される旨説明があった。

### ⑧平成26年度・27年度専門委員会委員について (資料10)

神尾正俊専務理事から、資料10に基づき報告があった。

今後、新しい体制のもと、若干の委員の改選の可能性がある旨説明があった。

### ⑨平成25年度栄章受章者について (資料別添)

神尾正俊専務理事から、別添の資料に基づき報告があった。

また、報告の際に本社員総会に先立って行われた栄章審査委員会において審査が行われたこと及び本社員総会に先立って行われた理事会において勲功章の受章対象に関する条項の見直しの必要性についての議論があったことの説明があった。

### ⑩平成25年度会員入会について (資料11)

神尾正俊専務理事から、資料11に基づき報告があった。

### ⑪規程改定について (資料12)

神尾正俊専務理事から、資料12に基づき報告があった。

### ⑫第5回定時社員総会について (資料13)

神尾正俊専務理事から、資料13に基づき報告があった。

### ⑬その他

神尾正俊専務理事から、「全日本大学女子選抜駅伝競走」の来年度の開催に向けて、開催日を調整中であること及び公益財団法人日本陸上競技連盟秩父宮章の学連からの受章推薦者として金子今朝秋理事を推薦したことが報告された。

以上をもって議案の審議等を終了したので、16時18分、議長は閉会を宣し、解散した。

# 第39回学生幹部役員研修会

公益社団法人日本学生陸上競技連合 幹事長 板東 孝訓

2014年2月27日(木)から3月1日(土)にかけて、東京・水道橋にて、第39回学生幹部役員研修会が開催されました。各地区学連の学生三役を中心に、全国から計27名が参加し、2泊3日の日程で、事務関係の手続き、さらには陸上競技全般を様々な面から学びました。

例年、競技委員会や総務委員会から講師を招き、競技運営や審判の仕方、文書の作成などを教授していただいておりますが、今年は、新しい試みとして、発表も基本的にすべて学生で行い、各地区学連の情報交換・コミュニケーションといった側面を重視したプログラムを組みました。

プログラム内容を以下に掲げます。

**【2月27日 於：内海ビル101会議室】**

- 各地区学連自己紹介
- 平成26年度日本学連主催競技会について

- 公認競技会申請と記録公認申請
- 各地区学連発表（前半）
- スポーツ安全保険について
- 学生役員懇親会

**【2月28日 於：内海ビル101会議室】**

- 新規B級審判員資格取得について
- 学連業務で使えるExcel講座
- 大学主催競技会と学連主催競技会
- 各地区学連発表（後半）
- 平成25年度日本陸連全国競技運営責任者会議報告
- 普通会員登録について

**【3月1日 於：LMJ東京研修センター4階中会議室】**

- 魅せる！陸上競技
- 各地区学連質疑応答

特に、各地区学連発表、各地区学連の質疑応答では、こちらからの一方的な講義などでは拾い上げること





が出来ないような、各地区学連が実際に直面している問題や実際に取り組んでいる工夫などについて取り上げることができ、評判も上々でした。

また、公認競技会申請や普通会員登録といった「お決まり」のテーマだけでなく、競技会を主催している大学にヒアリングを行い、学連として大学主催競技会から学ぶことがあるということを提言した「大学主催競技会と学連主催競技会」、日本学連が2013年度に力を入れてきた「観客を楽しませる」という試みに焦点を当てた「魅せる！陸上競技」など、学生だからこそわかる現場の工夫などを取り上げ、各地区学連の幹部と共に、より良い競技会運営のための試みについて考える機会も設けました。

さらに、研修会1日目の夜には懇親会も行い、1年間協力して競技会運営を行っていく仲間との絆を深めることができました。

研修会後に行った事後のアンケートでは、「知れた

いことが知れたり、新たな発見等があり、とてもためになった。新たな仲間が増えたりと楽しかった。」

「今回はディスカッションが多く、他地区の工夫や取り組みが分かり、非常に有意義でした。」「連合の学生中心で行っていて、講師の方を呼ばなくても素晴らしい研修会だったと思います。」など、概ね高い評価をいただきました。

一方で、「外部の方の講演があるためになる。」などといった意見もあり、より良い研修会に向けて、課題も見つかりました。

今年1年、今回研修会で集結したメンバーを中心に日本学生陸上界を動かすという気概をもって協力していくと共に、来年以降に向けてよりパワーアップしていけるよう、鋭意努力していきますので、日本学連、そして各地区学連の今後の取り組みにご期待ください。

### 学生幹部役員研修会出席者一覧

地区	氏名	学年	役職
連 合	板東 孝訓	3	幹 事 長
	山之口 航	2	副幹事長
	小林 亨輔	3	常任幹事
北 海 道	本村 新	3	幹 事 長
	小堀 満代	2	秘 書
	菅井 徹人	3	会 計
東 北	藤平 真吾	3	幹 事 長
	高橋 優吾	3	会 計
	安食雄太郎	3	常任幹事
関 東	加藤 裕人	4	幹 事 長
	武藤 泰斗	3	副幹事長
	加藤さくら	3	会 計
北 信 越	米嶋 航一	3	幹 事 長
	榊原 南実	2	秘 書
	松下 明広	3	会 計
東 海	市川 鷹矢	4	幹 事 長
	緒方 尚太	3	秘 書
	高木 俊	3	常任幹事
関 西	小畑 貴義	4	幹 事 長
	堀中 智志	3	秘 書
	大場咲衣子	4	会 計
中国四国	若林 拓也	3	幹 事 長
	土田 真夕	2	秘 書
	守屋 智裕	3	会 計
九 州	野上竜太郎	3	幹 事 長
	柴田 颯馬	2	秘 書
	佐藤 文哉	3	会 計

※学年、役職は平成26年度のもの

# 平成26年度(2014年度)会員

正会員 135名 普通会員 13,608名 賛助会員 1名

## 普通会員数の年度ごとの推移

平成26年4月1日現在

単位：人

年度	北海道	東北	関東	北信越	東海	関西	中国四国	九州	合計	前年比	5年前比	10年前比
2014	310	622	6,042	614	1,410	2,760	1,165	685	13,608	-4,966 ↓	-3,244	-1,618
2013	628	914	7,545	902	1,835	3,383	1,781	1,583	18,571	397 ↑	1,914	3,988
2012	640	910	7,273	832	1,826	3,360	1,736	1,597	18,174	296 ↑	1,841	3,969
2011	711	933	7,065	834	1,756	3,236	1,723	1,620	17,878	637 ↑	1,664	3,929
2010	688	919	6,792	821	1,686	3,106	1,653	1,576	17,241	389 ↑	1,420	3,374
2009	715	878	6,641	879	1,611	3,000	1,630	1,498	16,852	195 ↑	1,626	2,920
2008	754	952	6,626	822	1,480	2,923	1,598	1,502	16,657	324 ↑	2,074	
2007	651	977	6,497	799	1,426	2,870	1,520	1,593	16,333	119 ↑	2,128	
2006	651	1,005	6,452	743	1,493	2,829	1,471	1,570	16,214	393 ↑	2,265	
2005	636	1,041	6,258	763	1,429	2,728	1,441	1,525	15,821	595 ↑	1,954	
2004	599	984	6,118	751	1,321	2,605	1,410	1,438	15,226	643 ↑	1,294	
2003	587	885	5,864	749	1,257	2,519	1,311	1,411	14,583	378 ↑		
2002	604	841	5,663	755	1,184	2,478	1,259	1,421	14,205	256 ↑		
2001	617	811	5,604	685	1,123	2,486	1,258	1,365	13,949	82 ↑		
2000	638	789	5,503	685	1,122	2,430	1,246	1,454	13,867	-65 ↓		
1999	642	798	5,496	706	1,134	2,442	1,254	1,460	13,932			

2014年度	男子	女子	合計	前年比	比率(%)
北海道	251	59	310	-318	2.28
東北	454	168	622	-292	4.57
関東	4,754	1,288	6,042	-1,505	44.40
北信越	476	138	614	-289	4.51
東海	1,032	378	1,410	-425	10.36
関西	1,919	841	2,760	-623	20.28
中国四国	892	273	1,165	-616	8.56
九州	494	191	685	-898	5.03
全体	10,272	3,336	13,608	-4,966	

2013年度	男子	女子	合計
北海道	492	136	628
東北	663	251	914
関東	5,844	1,703	7,547
北信越	700	203	903
東海	1,326	509	1,835
関西	2,417	966	3,383
中国四国	1,352	429	1,781
九州	1,197	386	1,583
全体	13,991	4,583	18,574

# 平成26年度 賛助会員

(4月1日現在 順不同、敬称略)

ご入会ありがとうございました

入江 毅

## 賛助会員募集中

この法人の目的及び活動に賛同し賛助する個人又は団体の方は、是非ご検討ください。

〈年会費〉 賛助会員 ¥10,000 (1口)

※年会費は毎年納入していただく必要があります、年度内(3月31日)まで有効となります。

※本法人への賛助会費は寄付として扱われ、所得税等の納税控除の対象となります。

〈特典〉 ・会報への氏名・団体名の記載

・天皇賜盃日本学生陸上競技対校選手権大会への無料入場

〈入会手続きについて〉

①申込書(個人・団体)に必要な事項を記入し、本法人へ郵送又はFAXしてください。



②本法人の指定銀行口座へ、年会費をお振込み願います。



③ご入金が確認でき次第、本法人の賛助会員として登録させていただきます。

何かご不明な点がございましたら、下記事務局までお問い合わせください。

公益社団法人日本学生陸上競技連合 〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル 2階

TEL 03-5304-5542

Email [juauj@joy.ocn.ne.jp](mailto:juauj@joy.ocn.ne.jp)

FAX 03-5304-5569

URL <http://www.iuau.jp>

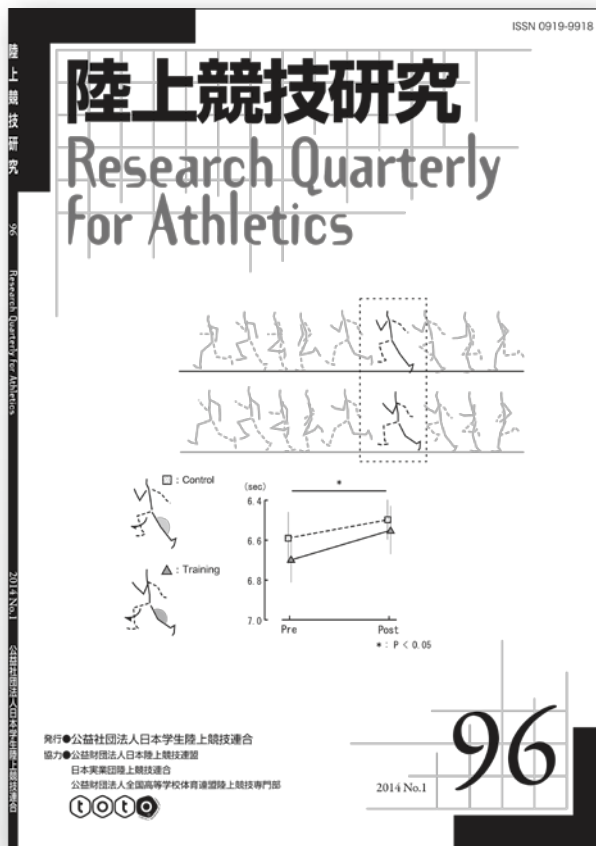
## 編集後記

◆3月の世界大学クロスカントリー選手権大会は、ウガンダ共和国のエンデベという都市で開催されました。日本に比べると治安や環境が悪く、選手団は事前に感染症予防のため国立国際医療研究センターにて予防注射を行ったのちに日本を出発しました。日本選手団の成績は男子の最高順位が6位、女子が4位で、団体も男子が3位、女子が2位という結果でした。団体戦では健闘したものの、個人では男女ともに上位3位までをアフリカ勢が独占し世界とのレベルの差を実感する結果となりました。今回参加した選手には、この悔しさをバネに練習に励み、世界に通用する力をつけてほしいと願っております。

◆春を迎え、トラックシーズンが開幕します。6月の個人選手権は例年通り平塚で開催される予定です。現在から競技場や神奈川陸協との打ち合わせ等の準備に奮闘しております。一方日本インカレは、国立競技場から熊谷へと場所を変更しての開催となります。会場の熊谷スポーツ文化公園は、補助競技場や投てき場を有する国内でも有数の施設です。このような恵まれた環境の中で選手たちが最高のパフォーマンスを発揮できるよう、全力で準備にあたっていききたいと思っております。

(常任幹事 小林亨輔)

# 「陸上競技研究」購読のご案内



第 96 号  
2014, No.1  
2014 年 3 月発行



公益社団法人 日本学生陸上競技連合は季刊研究誌『陸上競技研究』を発行しています。購読会員として入会ご希望の方は、年会費 (6,000 円) を下記へ郵便振替にてご送金ください。

口座記号番号 00190-4-142923

加入者名 (株)陸上競技社 陸上競技研究

通信欄に「何号から 1 年間」と必ず明記してください。

バックナンバーについては(株)陸上競技社 (TEL03-5215-8881) にお問い合わせください。